

投稿にあたって

「カウンセリング研究」では、すべての会員の方からの投稿を歓迎します。大学内外で論文を書き慣れている方はもちろん、現場でカウンセリングの実践に関わっているが論文は読むばかりという方も、ぜひ機会をとらえ形にまとめてご投稿ください。編集委員会ではご投稿いただいた論文がより完成されたものとなるよう、掲載可否の審査結果だけでなく、細かなコメントを付してお返ししています。

原稿執筆にあたっては、まず「カウンセリング研究」最新号巻末の**編集規定**と最新号1号巻末の**執筆要領**をよくお読みください。これらの規定は執筆の際の単なる「指針」ではありません。「カウンセリング研究に投稿するからには必ず守っていただきたい約束ごと」です。どんなにすぐれた論文であっても、これらの約束ごとには則ったものでなければ掲載されません。また、内容とは直接関係のない表面的な誤りであっても、数多くあればそれだけ長期にわたる審査・修正を必要とすることになります。

では、ひととおりの原稿が完成した段階で、投稿前に留意すべき点とはどのようなものでしょうか。以下に見落とされがちな点を列挙してみました。○は論文を投稿する際にほぼ一般的に守るべきこと、◇は「カウンセリング研究」が編集上採用している規定です。

1. 原稿の体裁

- ◇ 原則としてパソコンを使用し、20字×30行、1段組でページ設定を行う。
- ページ番号を挿入する。
- ◇ 原稿はページ設定をA4とし、① 本文、② 注・付記、③ 引用文献、④ 表、⑤ 図、の順に整える。
- ◇ 上記原稿は審査に使用するため、著者名・所属・謝辞等、投稿者を特定しうる情報はすべて削除して作成する。（謝辞等がある場合は、採択決定後に別途ご提出ください。）

2. 英文アブストラクト・和文要約

- 段落に分けず、1パラグラフで作成する。
- アブストラクトだけで掲載されるような場合（科学論文データベースなど）でも独立した情報源として機能しうるよう、文献引用は避ける。（但し、使用した尺度を明示する場合や、特定の先行研究の妥当性を検討する研究などでは、著者名、発表年、論文標題を併記すればよい。）

- 図表は引用しない。
- 英文は予め **native speaker** や翻訳機関等の意見を得て正確を期する。

3. 本文

- 略語は初出時にフルスペルを表記する。
- 同意語や類似概念の混在がないか、名称は統一されているかを検討する。
- すべての図表が本文において引用されているか、番号が引用順になっているかを点検する。
- 図表のおよその挿入位置を原稿右余白部に朱記する。
- 見出しの番号が前後していないかを点検する。
- ◇ 本文構成区分中の見出し番号は、1.2.3…、1)2)3)…、(1)(2)(3)…、①②③…の順で小さくなるようにする。
- ◇ 本文中の引用に際しては、著者名は以下の要領で記す。
2名の共著のとき：
（日本人）鈴木・小林、1996
（外国人）Ellis & Harper, 1994
3名以上の共著のとき：
（日本人）田中ら、1992
（外国人）Cohen *et al.*, 1997

4. 引用文献リスト

- 引用したすべての文献がリストアップされているか、綴りや年号の不一致がないか、本文と照合する。
- 執筆の参考にした文献であっても、本文で引用していないものは入れない。
- 著者の姓のアルファベット順に、同一著者については年代順に並べる。
- ◇ 著者名が複数の場合は全著者名を記載する。
- ◇ 日本人著者名については姓名ともに記載し、外国人著者名はfamily name, first nameのイニシャル、middle nameのイニシャルの順で記載する。著者が複数の場合は、各著者名の間には和文では「・」を、英文では「,」を入れ、最後の著者名の前に「&」を入れる。

例： 山口正二・吉澤健二・原野広太郎

Murray, E. J., Segal, D. L. & Carver, C. S.

- ◇ 翻訳書を使用した場合は原書について記載し、用いた翻訳書の訳者、刊行年、書名、発行所はその後ろに（ ）として記載する。

例：Knobloch, F. & Knobloch, J. 1979 *Integrated psychotherapy*. New York: Jason Aronson. (山口隆・増野肇監訳 1983 統合精神療法 星和書店)

- ◇ 同一著者名や同一雑誌名が連続して記載される場合も“同上” “ibid.” は用いない。
- ◇ 海外の書籍については出版地を記載する。
- ◇ 雑誌の省略名は用いない。
- ◇ 雑誌の引用ページは巻の通しページを記載する。巻の通しページを採用していない雑誌（例えば「健康心理学研究」）については7(2), 46-58のように（ ）内に号数を併記する。
- ◇ 大学の紀要や商業雑誌のように巻数をもたない雑誌については、第20集, 12-20あるいは第5号, 84-95のように記載する。

5. Table(s)

- ◇ 日本語で作成する。
- ◇ 表の題名は Table 1として表の上部に、説明などの注記は表の下に書く。

6. Figure(s)

- ◇ 1つごとに別紙とする。
- ◇ 原図の大きさは刷上りの2倍程度となるようにする。スキャンした図などを用いる場合は、高精細のものを使用する。
- ◇ 図中の文字は原則として日本語を用いる。
- ◇ 図の番号、キャプションおよび説明は、図の下に記載する。

7. その他

- ◇ 誤字脱字、ワープロの変換ミス、表の数値の間違いや本文との不一致などがないか最終点検する。
- ◇ 提出前に、本文中の引用文献が文献リストと完全に対応しているか、再度確認する。
- ◇ 「投稿論文チェックリスト」および「図、表の換算の目安」を参考に、原稿の分量が規定内になっているか、再度確認する。

論文作成は、特に現場の実践家の方々にとっては、多忙な中での一大事業といえます。こんなにたくさんの「約束ごと」があるのでは、と意欲が半減した方もいらっしゃるでしょうが、せつかくの貴重な論文をより多くの方々に読んでいただくためにも、ルールに沿った丁寧な原稿作成をお願いいたします。また、いったん掲載が決定したあとは編集委員会の許可なく手を入れることはできませんので、投稿前には原稿を必ず数回読み直し、十分に推敲するよう心がけてください。

(「カウンセリング研究」編集部 岩崎恵美)